

東日本大震災により

被災された皆様に

心よりお見舞い申し上げます



# 三條別院のご案内

## 三條別院に想う



改めて「三條別院に想う」と、何をすべきかための場なのか?という問いが生じます。

これは「別院が、」ではなく、「私が別院で、」というあくまで私個人を主体に置いた問いです。

「寺を開く」と言われるなか(誰が言っているかは分かりませんが)振り返ると、私は別院ことも奉仕団や別院フォーラムなどの行事に関わり、まずは別院に来ていただき、楽しんでいただくといったスタンスで動き、それを縁に同朋の輪が広がればと考えていました。

「まず来ていただき、楽しんでいただく」ことは決して悪いこととは思いませんし、子供が遊ぶ姿や、人々の賑わいが三條別院にあるのは素直に嬉しいことです。そういうイベントでもなければ、「三條別院に行ったことはないけど、いつちよ行ってみるか」という衝動は中々生まれません。はないかと、数年間、三條別院の近くにいてそのように感じます。

しかし、そのイベント事が導くべき、朋に手を合わせ、朋に法を聞く「同朋の輪」の拡大、その目的が達せられたという実感はあまりにも希薄な上

に、「そのうち、なんとか」とぼやかして問題にしていなかったのが私の事実です。

と、このように感じながらもたいした反省もなく、その時期になれば行なうルーチンとして処理していましたが…

しかし、今年の三月十一日以後、生活の様々な場面で感じられる、自身の行動に伴う羞恥や躊躇は「雑行、いたずらごと」という言葉を呼び起こします。

それは、私が三條別院に関わりを持つ上でも同様で、やろうとすることに羞恥や躊躇は伴います。世間がどうあれども、すべきことは何なのか?「寺を開く」とき大切な何かを失っていないか?改めて、改めて問い直したいです。

(第十三組 願性寺 井上 知法 氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

窪 智至 氏(第二十組 常明寺)より

ご執筆いただきます

■旧御堂復活!

一八八〇年、本寺小路から火の手が上がり、三條の街を焼き尽くしました。これは「三條大火」と呼ばれ、東西両別院も類焼し、灰燼に帰しました。折しも本山は明治期の両堂再建の渦中、地方の一別院の再建は困難だったものらしく、一九〇八年の落慶入仏式まで、実に三十年近くかかりました。旧御堂は本堂が完成するまでの仮御堂とし

て、急ピッチで建設され、一八八一年に棟上げとなりました。それ以来実に一三〇年余が過ぎ、法要・行事の中心が本堂に移るにつれ、旧御堂の役割は薄れていき、次第に「別院の何だか薄暗い建物」と認識されるようになりました。



【春彼岸 輪番の法話の様子】

このたび、もつと別院に聞法の間を！旧御堂を復活したい！という願いが一つになり、毎月十三日（いわゆる両度の御命日）に三条別院定例法話として、旧御堂を会場に教区内で活躍する方々を講師に法話をいただくこととなりました。第一回は佐々木憲雄氏（第十五組光善寺）から、十八名の参詣者を前に、同朋会運動、一緒に聞法していく関係を作っていくこと、の困難をお話しいただきました。佐々木氏は帰敬式を受け法名をいただきました。御門徒に、お内仏に自分の法名を安置することを勧めるそうです。すると「死んだあとの名前に手を合わせるには不思議だ」と問いが始まる……など、具体的なお話をいただきました。

また、三月十八日～十九日に厳修された春彼岸には、教化審議会委員長の関根大丘氏（第二十組松韻寺）に法話をいただき、そして十九日の日中法要後には旧御堂に会場を移し、鷺尾輪番による法話が行なわれ、ようやく訪れた新潟の春を、福島県からの被災者の方々と共に過ごしました。

### ■子ども奉仕団を開催しました

毎年恒例の三条別院子ども奉仕団が、四月三日（日）～四日（月）まで開催されました。本年は二十三名の子ども達が、別院でお勤め練習、ロウソクづくり、本堂の清掃、お釈迦さまと親鸞聖人のお誕生法要などのお仕研修を、本堂・境内を使ったレクリエーションを交えながら行いました。



【皆そろってゲーム中！！】

この度の東日本大震災によって日本中に不安が広がる中、ここ三条別院にも避難されている方たちもいらっしやいます。その子どもたち三名も、奉仕団に参加していただきました。夜には工作の



【震災復興を願い】

時間で作ったロウソクで、境内に「心」という文字を描きました。「三条別院について、親鸞聖人・お釈迦様のお誕生会を通して共に同朋として生きてあるこ

とに気づく」という理念のもと、子ども奉仕団は行われています。「支援する」「助ける」「義援」という言葉が巷で多く聞かれる中、我々は仏教徒として「共に語り、共に苦しみ、共に悩み、共に手を合わせる」ということが必要なのではないかと、そんなことを考えさせられた二日間でした。

### ■御命日（二十八日）の集い

宗親親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

### 【四月二十八日（木）】

午前十時 お勤め（御命日） 日中法要

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

### ◎今月の法話講師

渡邊 智龍 氏（第十八組 恩長寺）

### ◇二〇一一年 法話講師一覧

- 五月 斎藤 恵康氏（第二三組 廣泰寺）
- 六月 鳴澤 宏誓氏（第十九組 長福寺）
- 七月 藤井 信彰氏（第十四組 長楽寺）
- 八月 村山 まみ氏（真宗学院第一期卒業生）



- 九月 井上 知法氏(第十三組 願性寺)
- 十月 草間 朋哉氏(第十二組 勝覺寺)
- 十一月 竹内 淳一氏(三条教務所 主事)
- 十二月 関根 正隆氏(第二三組 長徳寺)

### ■定例法話のご案内

もっと聞法できる場を、もっと別院に触れていただける場をと、本年三月より(試験的に三ヶ月)別院の新行事として、両度の命日(前門首の命日)である毎月十三日に「定例法話」を行っております。

皆様、お気軽にお越しください。

◇期 日 毎月十三日

◇時 間 午後一時三十分より 一時間程度

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇講師一覧

四月 猪飼 松子氏(今朝白同朋の会代表)

五月 藤吉 禅氏(第十三組 廣深寺)

### ■三条別院有志の会に

参加してみませんか？

別院を崇敬護持していきたいという願いの下、有志の方々集まり「別院有志の会」を毎月開いております。活動内容としては、清掃奉仕を初め、法話や座談会(茶話会)等を行っております。現在十余名の皆様によって活動しておりますが、より多くの方々の参加を願っておりますので、ご参加していただける方は、お気軽に三条別院までご連絡ください。

### ■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきました三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇うことを通じて、ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となることを願い、奉仕研修会を開いてみませんか。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会をお申し込みいただく方(団体)へ、冥加金としまして左記のとおり頂きます。

#### ◎冥加金

・日帰り 一、五〇〇円

・一泊二日 二、五〇〇円

#### ◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

・朝食代 五〇〇円

・昼食代 一、〇〇〇円程度

・夕食代 一、三〇〇円程度

### ■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階事務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、シーツクリーニング代としまして、五〇〇円いただいております。

また、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

### ■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。

ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院御影巡回がより多くの方々のお念仏をいただける場となるご縁となりますことを、願っております。

※曜日・時間等は昼夜問わず、皆様のお仕事の後などご相談させていただきます。

### 同朋会館前の梅の木に

春が訪れました



「梅一輪一輪ほどのあたたかさ」と江戸時代の俳諧師、服部嵐雪も詠んでおりますが、

梅の花が一輪咲くごとに暖かくなってきました。

この度の大震災における被災地でも暖かく、皆さんが安心して生活できる日々が早く訪れるのを願っております。